

# 小樽間税会 会長賞

小樽市立菁園中学校 1年

岡 菜々子

## もし、税金が学校に使われなかったら

私たち中学生や小学生の教育に使われるお金は、ほとんどが税金で賄われています。では、もし学校に税金が使われなくなったらどうなるのかを考えたいと思います。

まず、税金がなければ学校を建てるのが難しいと思います。学校の建築費は最低でも二千～四千万円かかるといわれています。もし税金が使われなかったら、その莫大な金額を用意するのはとても難しいといえるでしょう。

次に、日本では小、中学生の教育費は国が負担していますが、もし、税金が使われなくなれば、学校へ行くお金は個人が負担することになるでしょう。そうなれば、お金のあふ家の子は学校に行けるとは思いますが、お金のない家の子は教育費を払う余裕がなく、学校に行きたいとしても行けなくなってしまうでしょう。すると学校に行っている子は学校で教育を受け、大半の子が知識や常識を学びますが、学校にいけない子は学校での教育を受けることができないので、同じ年の子どもでも知識や能力に差が出てしまいます。

このように貧富の差で学力にも差が出てしまい、日本の未来を担う子供達が十分な学力、常識を身に付けて育つことができなくなるのです。そうなれば、日本は衰退していくでしょう。

また、税金が学校に使われなければ、部活動などの子供にとって楽しめるものや、想像力を育てるものもできなくなるようになります。部活動は新しい仲間と出会うことができますし、想像力、協調性、行動力という、人間として大切なものを身に付け、発達させる働きもあります。しかしそんな部活動ができなくなれば子供達は楽しく、自分のやりたいことに取り組み、自分の良さを育んでいくこともできなくなるのです。

この様に、税金は私達の生活に大きく関わっていて、税金がなくなれば日本の未来は大きく変わり、衰退していく可能性が高いのです。私達学生は消費税を払っていますが、その税金が日本の経済を大きく動かし、巡り巡って自分達が学校で教育を受けることが

できるという事を忘れず、税金に感謝したいと思いました。